

## 2010年度業績予想と成長戦略

富士フイルムホールディングス株式会社

代表取締役社長・CEO 古森重隆

2010年4月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

### 当社の目指す姿

事業構造の転換を実施、再び成長を加速する新たなスタートラインに立つ

#### 強靱な企業体質の実現

- ✓ 構造改革の完遂
- ✓ 資産・資本効率改善
- ✓ 徹底的なコストダウンと経費削減

#### 成長分野への集中投資

- ✓ 重点事業分野の成長戦略
- ✓ 新興国への経営資源・商品の集中投入



2009年度に実施した構造改革は順調に進捗、2010年度には終結へ

(億円)

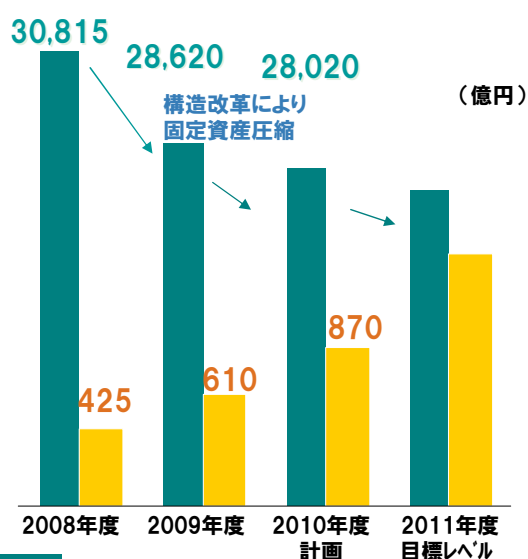
	主要施策	費用	
		09年度(実)	10年度(計)
イメージング	✓カラーペーパー設備等の資産圧縮 ✓欧・米・日でのラボ閉鎖 ✓生産品種絞込み	541	100
インフォメーション	✓人員スリム化、資産圧縮など	643	20
ドキュメント	✓生産機能の最適化、原価低減の徹底推進 ✓経営革新活動の海外への展開	253	130
		1,437	250

累積効果		
09年度(実)	10年度(計)	11年度(計)
380	830	900

前年比改善額 450 70 2

## 資産・資本効率改善

構造改革による資産圧縮を進め、資産・資本効率を改善する



■ 資産(期中平均)  
■ 税引後営業利益

※構造改革費用前営業利益一税(税率40%)として単純試算

※ROA=税引後営業利益/資産とした

※ROE=税引後営業利益/株主資本とした

## 成長に向けた2010年度の取組み

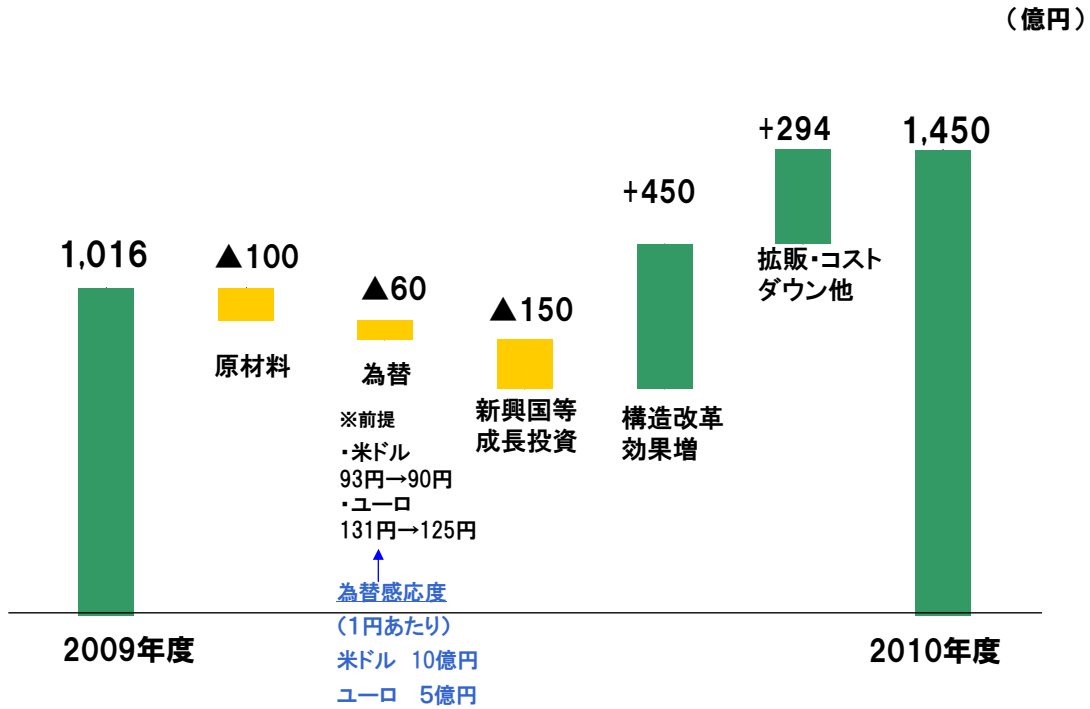
### 2010年度 通期業績予想

FUJIFILM

(単位:億円)

	2009年度 (実績)		2010年度 (予想)		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	21,817	100.0%	23,000	+1,183	+5.4
構造改革費用前 営業利益	4.7%	1,016	6.3%	1,450	+434	+42.7
構造改革費用		1,437		250	-1,187	-82.6
構造改革費用後 営業利益	-1.9%	-421	5.2%	1,200	+1,621	黒字化
税金等調整前 当期純利益	-1.9%	-420	5.1%	1,180	+1,600	黒字化
当社株主帰属 当期純利益	-1.8%	-384	2.6%	600	+984	黒字化
1株当たり当社株 主帰属当期純利益		-78.67円		122.80円		+201.47円
1株当たり配当金		25円(予定)		30円(予定)		+5円
為替 :米ドル		93円		90円		-3円
:ユーロ		131円		125円		-6円

構造改革費用前営業利益増減要因(対2009年度)



デジタルカメラ事業

販売シェアアップとブランド力の向上を目指す

注力ポイント

- 商品力
- 販売力
- コスト競争力

2010年度の達成目標

販売数量シェア拡大

- 世界シェア 10%
- 販売台数 1,200万台 (前年比+33%)

カメラメーカーとしての  
ブランド力向上



FinePix HDP-L1

3Dカメラ(REAL 3D W1)で撮影した映像を3Dテレビで視聴可能にするHDプレーヤー



FinePix REAL 3D W1



FUJIFILM FINEPIX HS10

光学式30倍マニュアルズームレンズを世界初搭載

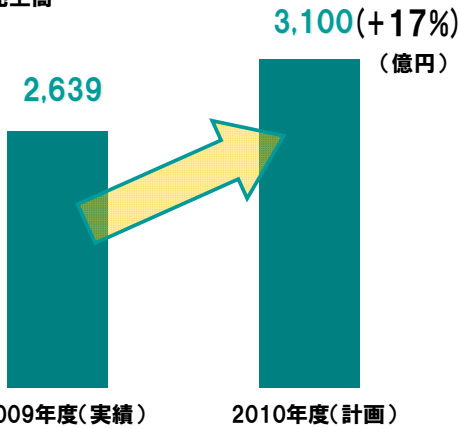


FUJIFILM FINEPIX Z700

3つの新機能を世界初搭載 (2画面サクサク再生、ペット自動検出、タテヨコオート)

「予防・診断・治療」分野で事業拡大し収益の柱へ

売上高



メディカル

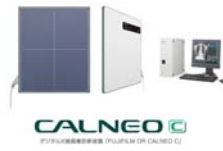
- DR拡販の本格化 (カセットDR導入)
- 内視鏡の新興国等拡販
- PACSから診療情報システム(CIS)への拡大

ライフサイエンス

- T-705 国内申請へ
- 富士フィルムファーマ 営業開始



CALNEO U  
ISS(表面読取)方式により  
最適な高画質を実現



CALNEO C  
●ISS方式  
●従来のカセットと同サイズで  
最低限の導入コスト実現



ASTALIFT  
アスタリフトに新商品を追加  
(2010年5月発売予定)

フラットパネルディスプレイ材料事業

2010年度の売上は高水準で推移する

**2010年度の前提** パネル出荷面積は、前年度の反動により限定的成長  
偏光板メーカー・パネルメーカーの生産効率改善や在庫調整により、  
フィルム需要もやや鈍化する見込み

**中期的には** CRT置き換え需要で液晶市場の高成長は継続

手綱をゆるめず、競争力確保のための施策を展開

製品別施策

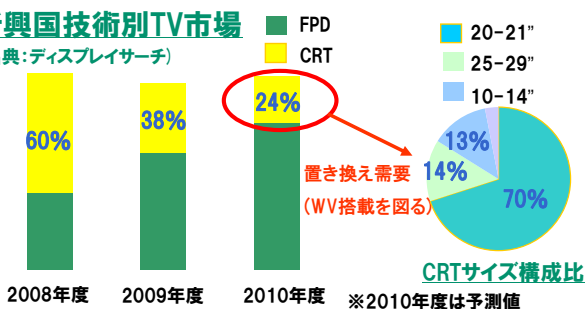
**TACフィルム** 厚みラインアップ拡充による高シェア維持

**WVフィルム** 新興国市場向け中型液晶テレビへの搭載拡大

**VAフィルム** 新製品による更なるシェアアップ

新興国技術別TV市場

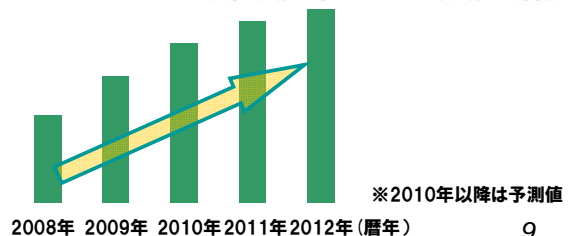
(出典:ディスプレイサーチ)



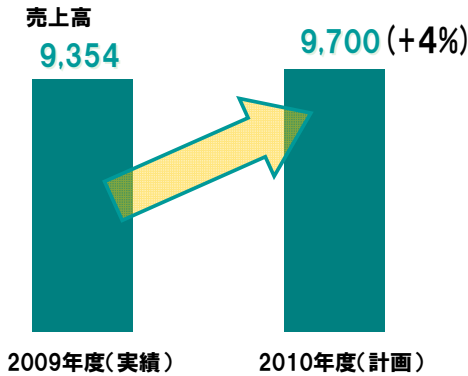
LCD TV市場出荷面積

(出典:ディスプレイサーチ)

中期(2008年~2012年)の  
年平均成長率は+20%の高成長を継続



強いコスト・強い商品・強い経営基盤で成長フィールドでの競争に打ち勝つ



成長のキーファクター



地域別

全チャネルでの増収を実現し、成長軌道への回復を実現

- 国内** **増収** 主要製品の拡販とサービス・ソリューション分野の売上拡大
- アジア・中国** **10%超** 全製品カテゴリーでの大幅増収  
中国市場+20%
- 欧米輸出** **増収** 新興国の回復を捉えた重点製品の投入

新興国市場

成長余地の残る事業分野・地域への経営資源投入を加速

低シェア地域・新興国ニーズにあった商品導入を加速。  
リソースを集中投入し思い切った新興国施策を展開。

2010年度 新興国\*売上高目標 **20%増**

前年度比

\*富士フィルム BRICS・中東売上高

富士ゼロックス アジア・中国売上高



# 参考データ 2010年度セグメント別業績予想 FUJIFILM

	セグメント	2009年度 (実績)	2010年度 (予想)	増減	増減率(%)
売上高	イメージング	3,455	3,500	+45	+1.3
	インフォメーション	9,008	9,800	+792	+8.8
	ドキュメント	9,354	9,700	+346	+3.7
構造改革費用前 営業利益	イメージング	-151	50	+201	黒字化
	インフォメーション	617	950	+333	+54.0
	ドキュメント	575	700	+125	+21.7
	全社費用及び セグメント間取引消去	-25	-250	-225	-
	合計	1,016	1,450	+434	+42.7
構造改革費用	イメージング	541	100	-441	-81.5
	インフォメーション	643	20	-623	-96.9
	ドキュメント	253	130	-123	-48.6
構造改革費用後 営業利益	合計	-421	1,200	+1,621	黒字化

(単位:億円)

12

# 参考データ メディカル・ライフサイエンス事業 FUJIFILM

富士フィルムファーマ設立により、医薬品開発・販売に本格参入

当社・三菱商事・東邦ホールディングスとの三社合併による新しいビジネスモデルで早期に事業確立

**事業展開** 売上目標:国内売上500億円(開業5年後)

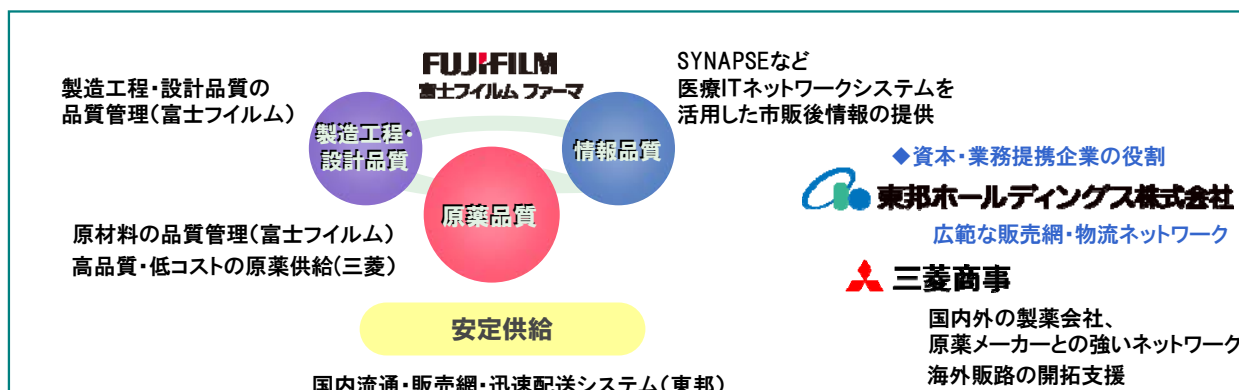
設立時:ジェネリック医薬品の販売

富士フィルムの品質管理システムを適用した独自の品質保証基準により  
信頼性の高いジェネリック医薬品の普及

:独自のFTD技術を駆使した高付加価値ジェネリック医薬品を開発・販売

将来 :同技術による新薬開発を手掛ける総合医薬品会社へ

▶ 富士フィルムファーマによる医薬品事業モデル



13

株価パフォーマンス

